日本語の時制の話 http://e-ivy.jp/blog/4204/

一方、日本語の時制は、2つであるとされています。

「現在」と「過去」です。

二つの言語を比べてみたとき、日本語の時制のあまりの少なさに、少し驚いてしまいますね。

英語の時制は非常に細かく設定されていて、日本語の時制はかなり大まかです。

 理解しておかなければならないのは、ある概念や文法事項の有無が、言語の優劣を示すわけではないということです。単に、言語の「構造」や「表出形式」、「世界の捉え方」が違っているというだけのことです。

 日本語は、時制に頼らずに、事象を表現する言語です。

そして、そのために、私たちは「時制」を理解しづらいのです。ですから、より注意深く英語の時制を学習しなければなりません。

さて、日本語であっても、別の方法を用いて、英語の時制に対応した表現をすることができます。

たとえば、英語の進行形には、「～ている」という訳が当てられます。

He is studying English now.

（彼は今勉強している。）

 言語学では、「～ている」のような、動作のあり方を示すものを「アスペクト」と呼びます。

この「～ている」は、時制を表しているわけではありません。「アスペクト」は、時制のように、絶対的、固定的な「時間軸」の基準に照らして運用されるものではなく、動作の「様態」を表すものです。

日本語は、時制ではなく、「アスペクト」に重心がある言語です。

 日本語の「～ている」は、動作や状態の「継続」を表しています。

この言葉は「進行形」の時制だけに固定されているわけではないので、「進行形」以外の時制の訳に当てられることがあります。

「～ている」は広い範囲の時制をカバーできるので、英語の「時制の枠」にとらわれることなく活躍します。

 現在形や現在完了の「継続用法」でも「～ている」を使うことがあります。

He studies English every day.

（彼は毎日英語を勉強している。）

He has studied English for two years.

（彼は2年間英語を勉強している。）

 また、「～ている」は、動作が「完結」した状態にあることを述べる際にも使われます。

そのため、現在完了の「完了・結果用法」で表現されるような内容を表すこともできるのです。

I have already finished my homework.

（私はもう宿題を終えている。）

 まぎらわしいので、「完了・結果用法」の訳は「宿題を終わらせたところだ」とか「宿題を終わらせてしまった」という表現を使います。

 今度は「未来」について考えてみましょう。

日本語には「未来形」がないということになっています。

普通「will」に訳を当てるときは、「～するつもりだ」とか「～だろう」という表現を用います。

しかし、実は、そのような言葉を付け足さなくても「未来」を表すことができます。

そもそも日本語の動詞の基本形は、「現在」の動作だけでなく「未来」の動作をも含んでいるからです。

I will go to the library tomorrow.

（私は明日図書館へ行く。）

I sometimes go to the library.

（私は時々図書館に行く。）

 「行く」という形は、「現在形」と「未来形」の2つの時制に対応しているのです。

まぎらわしいので、「未来形」を訳すときには「図書館に行くつもりだ」と表現するわけです。

日本語は「未来形」がないというよりも、「現在形」と「未来形」の区別がない言語だといえます。

ですから、日本語の2つの時制を「非過去」、「過去」と呼んでいる研究者もいます。

最後に、「過去」について考えてみましょう。

「過去形」は、日本語では「～た（だ）」で表します

He came to Japan last year.

（彼は去年日本に来た。）

 また、現在完了も同じく「～た（だ）」を使って表すことがあります。

Fall has come.

（秋が来た。）

 ここまでは、よく知られた内容です。しかし、「～た（だ）」にもやはり、一筋縄ではいかない「ねじれ」があります。

さらに、別の例を見てみましょう。

The boy riding on a bike is my brother.

（自転車に乗っている少年は、私の弟です。）

 日本語の文について考えてみましょう。

この文は、意味を損なうことなく以下のように言い換えることができます。

＝「自転車に乗った少年は、私の弟です。」

驚くべきことに、「～た（だ）」は「～ている」と同じ意味で使われることがあるのです。

もとの英文は「～ing」を用いた「現在分詞の形容詞的用法」の文ですが、要するに、「～ing」の訳として「た（だ）」を使う場合があるということなのです。

（「～た（だ）」を、時制を示すものではなく、「アスペクト」であると考える人もいます。）

 日本語は、英語よりも汎用性の高い「表現」が多い言語であるといえると思います。

そのため、意味の特定が「文脈」に依存することがあります。つまり、日本語は、言葉の組み合わせや状況によって、ある表現の「意味」を定めるというような傾向を持っているのです。

 英語と比較することで、日本語の特徴がよりはっきりとわかりますね。

これも英語（外国語）を勉強する意義のひとつです。

他者を知るということは、自分を知るということでもあります。